

第1回記念事業で行われた大沢小「海よ光れ」の一幕



顕彰する会には多くの個人や団体から募金が寄せられた(鈴木元総理の出身校である旧東京水産大学の同窓会「楽水会」による寄付金贈呈式)



趣旨に賛同する沿岸市町村や漁協関係者、町内各種団体など60団体が出席した設立総会の様子



平成18年に大沢小へ贈った大漁旗。全校表現劇「海よ光れ」のラストシーンで使用される

に大沢小に大漁旗を贈ったほか、11月3日には記念式典や鈴木元総理をしのぶビデオの上映、大沢小の全校表現劇「海よ光れ」の上演が行われました。

町民お別れの会の様子。写真中央は遺族を代表してあいさつする長男の鈴木俊一衆議院議員



平成16年7月、鈴木元総理が逝去され、関係者や町民に深い悲しみが広がります。その2年後に「鈴木善幸元内閣総理大臣を顕彰する会」が発足、「善幸さん」の多大な功績を後世に伝える活動が始まりました。

多くの人が逝去を惜しむ

平成16年7月19日、鈴木善幸元総理は93歳でその生涯を終えられました。町では庁舎前に哀悼の意を示す半旗を掲げ、21日から2日間役場玄関ホールに弔問記帳所を設置。町民ら953人が記帳に訪れました。同年9月11日には町中央公民館で「町民お別れの会」が行われ、本町をはじめ近隣市町村から740人が参列。地域の発展に多大な功績を残した故人のめい福を祈りました。

顕彰する会に募金集まる

鈴木元総理が亡くなられてから2年後の18年7月2日、「鈴木

善幸元内閣総理大臣を顕彰する会(会長・沼崎喜一町長)が設立され、「善幸さん」と親しまれた鈴木元総理の勲功を後世に伝える活動への取り組みが始まりました。同会では、生誕100年となる平成23年を目標に鈴木善幸像と顕彰碑の建立、鈴木善幸記念館(文庫)建設基金の積み立て、記念行事などを計画し、募金活動を展開。同会には趣旨に賛同する個人や団体から多くの募金が寄せられ、活動開始からわずか2年余りで目標額を超える約3900万円が届けられました。記念行事として18年10月27日



「善幸さん」の逝去を惜しみ、弔問記帳所には多くの町民が訪れた

「顕彰する会」の発足

国民から親しまれた「善幸さん」の勲功を伝える活動が始まった